



加賀理事長

近畿印刷産業機材協同組合 2010年 新年互礼会

『大変』とは『大きく変わるチャンス』

1月28日、大阪・北区のラマダホテル大阪 組合員らおよそ100名が出席

近畿印刷産業機材協同組合(加賀順三理事長)は1月28日、大阪・北区のラマダホテル大阪において新年互礼会を開催。組合員らおよそ100名が駆けつけ、新年の門出を共に祝った。また当日は互礼会に先立ち、恒例となっている新春講演会も併催され、朝日放送「おはようコールABC」「ムーブ」や関西テレビ「痛快エブリデイ」など多数のテレビ主演でおなじみのフリーライター・ニュースコメンテーターである山本健治氏を講師に招き、「元気な企業はここが違う! ~元気経営の秘密はこれだ~」と題して、約一時間半の講演が行われた。

続く互礼会の冒頭、新年の挨拶に立った加賀理事長は、「経済環境は最悪期を脱しつつあるといわれるが、このまま回復基調が続くかはきわめて不透明な状況。ただ、100年に一度の不況だが、戦後バブル崩壊まで右肩上がり成長し続けたことが異常であり、今後は10年に一度くらいはこのような不況が来ると肝に銘じる必要がある」との認識を示した上で、「『大変』とは『大きく変わるチャンス』でもある。全員が『やれる手は



恒例の新春講演会も併催 講師は山本健治氏、「元気な企業はここが違う!」

全て打った」と言い切れるだろうか。これまでの固定観念で『そんなことできるはずがない』『うちの会社でそんなこと…』など出来ない理由を先に考えてはいないだろうか。今こそ頭を切り替えて行動する時である」と呼びかけた。

また、同協組が今年創立60周年を迎えることにふれ、「昭和24年の



講師の山本健治氏

創立以来60年。人ならば還暦を迎えたことになる。還暦とは本卦(ほんげ)還りとも言われ、生まれた時に還ることだそう。資金繰りが楽で、客層、客数に恵まれ、優秀な人材が揃っているなど、好条件を揃えて創業された企業はほとんどない。先人は皆、無い無い尽くしの中で気力と創意工夫、団結力、そして何より勇気を持って挑戦し、今日の礎を築かれた。我々もそんな創業時の原点に立ち返り、勇気を持って変革に臨み、新たな可能性に挑戦し、この状況を利として乗り越えたい」との決意を表明した。

なお、本年6月4日には組合創立60周年記念式典を予定しており、加賀理事長は「新たな門出にふさわしい活力ある式典にしたいと考えている」と述べ、多くの参加を呼びかけた。

この後、上野耕治副理事長による乾杯発声で祝宴へと移り、新年を祝う歓談が繰り広げられた後、最後は弓倉清副理事長リードによる三本締めでお開きとなった。



講演の様子